

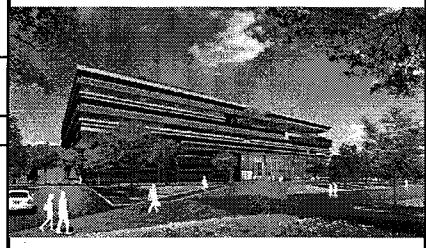
この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2016年3月までの期間限定で使用できます。

CASBEE 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年補修版Ver.2(BPI/BEI対応) | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	サントリーワールドリサーチセンター	階数	地上4F
建設地	京都府相楽郡精華町	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条の指定地域	平均居住人員	400人
気候区分		年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年4月 予定	評価の実施日	2014年4月1日
敷地面積	49,151 m ²	作成者	竹中工務店
建築面積	7,621 m ²	確認日	2014年4月1日
延床面積	21,755 m ²	確認者	竹中工務店



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)								
<p>BEE = 3.9 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <table border="1"> <tr> <td>①参照値</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>②建築物の取組み</td> <td>78%</td> </tr> <tr> <td>③上記②以外の</td> <td>78%</td> </tr> <tr> <td>④上記+</td> <td>78%</td> </tr> </table> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです(kg-CO₂/年・m²)</p>	①参照値	100%	②建築物の取組み	78%	③上記②以外の	78%	④上記+	78%	<p>Q2 サービス性能: 5 Q1 室内環境: 4 Q3 室外環境(敷地内): 4 LR1 エネルギー: 4.7 LR2 資源・マテリアル: 4.1 LR3 敷地外環境: 3.6</p>
①参照値	100%									
②建築物の取組み	78%									
③上記②以外の	78%									
④上記+	78%									

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q のスコア = 3.9</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 3.9</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 3.9</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 4.0</p>
<p>LR のスコア = 4.2</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 4.7</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 4.1</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.6</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>けいなんに属する研究所としての「日本らしき」と、サントリーの企業理念から導かれる「水・緑・土」をコンセプトに、外装は地層を想起させるPe塗料とし、建物に溶け込むように植栽を配するとともに、影深く抑制の効いた開口部を設けた。敷地に将来増設スペースを確保できるように建物をコンパクトにまとめつつ、敷地南側の里山や北側のけいはんな記念公園などの周辺環境と調和するように、外構に多くの植栽を設けている。設備計画は高効率熱源、大温度差送水、インバーター制御などの高効率化技術、間接排熱回収や人感センサー、CO₂濃度連動空調制御による外気負荷低減技術、トップライトを利用した明るさセンサー照明制御や太陽光発電等による自然エネルギー利用を行っている。</p>		<p>その他</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>空調冷暖フリー方式(ラボエリア) / タスクアンビエント照明方式(ラボ執務エリア) / 外気の各階取入れ、屋上排気(ラボエリア)</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>天井高さは3.55m(ラボ執務エリア) / 建築基準法の1.25倍の耐震性確保 / 外調機の階別系統分け(ラボエリア) / 非常用発電機 / トランスのバイパス回路 / 階高5m確保</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>十分な緑地面積確保 / 排熱機器の屋上設置</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>トップライトによる自然採光 / 年間エネルギー消費量目標値の計画</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水器具の採用 / エコマーク商品の積極的採用</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>適切な駐車場台数の確保 / 排熱機器の屋上設置 / 適切な廃棄物置場の確保 / 敷地南側里山の環境保存</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される